

NEVER GIVE UP

PART II

阪神・淡路大震災 LPガスの活躍

震災文庫

11

81

震源地の野島断層 (淡路島北淡町)





阪神・淡路大震災 LPガスの活躍



LPガス復興本部長
北野 久夫

平成7年1月17日午前5時46分、まだ明けやらぬ阪神・淡路地域を突如として襲った都市直下型大地震は、一瞬のうちに、ガス・水道・電気・交通・通信といったライフラインをすべて破壊し、非情にも6千人を越える尊い人命を奪い去り、戦後最大の大惨事となった。

道路は随所で寸断され、阪神間の大動脈である高速道路は橋桁が落下横倒しになって崩壊したほか、JR、阪神・阪急電車、神戸高速、神戸地下鉄も運行不可能となり、また、100万を越える世帯で停電、135万世帯が断水、電話は28万5千回線が不通となっ

て、都市機能は完全にマヒした。

都市ガスにあっては、各所で埋設配管が損傷し、随所でガスが噴出・漏洩して、住宅街にガス臭がただよい、漏洩した都市ガスと通電による複合火災も発生するなど、住民に大きな不安と恐怖を与えた。

また、災害救助法の運用を受けた10市10町で、85万7千4百世帯の都市ガス供給が停止し、大阪ガスでは全国から延72万余名の応援を得て懸命の復旧作業を続けたが、その復旧には85日を要することとなった。

一方、LPガスにあっては、地震発生後ただちにLPガス販売事業者が供給現場へかけつけ、倒壊した家屋からLPガス容器を撤収したり、火の手が迫った消費設備から容器を安全な場所へ移すなど、夜を徹しての作業を続けたほか、多くの消費者自らが地震発生直後に容器のバルブを閉栓、また地域の消防機関・自治会等もこれに全面協力、そのため、あれだけの大地震であったにもかかわらず、二次災害は、不可抗力とも言える1件のみにとどまったことは、まさに奇跡といっても過言ではない。

また、復旧作業については、地震発生当日から各家庭の安全点検を開始し、安全が確認されればその場で開栓して使用していただくことにしたため、LPガスの特性である「即応性」が遺憾なく発揮された。

被災地域でLPガスを使用している家庭は23万5千8百世帯、そのうち、危険箇所からの容器の撤収や安全点検を要したものは16万2千7百世帯あったが、不眠不休の体制と

00095060359

NEVER GIVE UPの精神で12日後の1月28日には、これらすべての世帯の復旧作業を無事終えることが出来た。

神戸市、芦屋市、西宮市等の都心部では、長期間都市ガスの供給が受けられず、市民が長期にわたって、炊事、風呂、暖房にもこと欠く不便な生活を強いられることになり、日常生活に大きな影響を及ぼしたが、中でも病院での医療用、避難所での炊事・暖房用として緊急に求められる熱源はLPガスに頼らざるを得ないため、LPガス販売事業者は24時間体制で、陥没した道路を迂回し、或いは倒れかかったビルを避けながらLPガスを供給しつつ、緊急要望に応じてきた。

そのほか、避難所や一般家庭をはじめ、喫茶店、飲食店またテント村にも可能な限りの供給を行うなど、供給がストップしたままの都市ガスに代わって、LPガスは市民の生活基盤を根底から支えて来たのである。

また、倒壊・焼失等により住居を奪われた被災住民のための仮設住宅は、8月17日現在、722団地で47,950戸が建設されたが、これらの仮設住宅では、すべてLPガスが使用されることとなり、1月20日から始まったLPガス配管工事と開栓作業並びに入居者に対する安全使用説明は、未整地という悪条件の中で、時間的制約もクリアーしながら、言葉どおりの人海作戦をもって実施された。

日常生活の基盤を支える「都市ガス」と「LPガス」という二大ガス体熱エネルギーの片方の都市ガスは供給不能となる大打撃をうけたため、長期間にわたる住民の生活苦は察して余りあるものであったのに対し、片方のLPガスは、地震発生直後から始められた復旧作業により、震災当日からでも使用できるようになり、なおかつ、都市ガス供給エリア内の一般家庭に対しても万難を排して安全供給がなされ、阪神・淡路大震災におけるLPガスは、その特性の「利便性」「即応性」「安全性」を遺憾なく発揮して、「災害に強いLPガス」を実証したほか、LPガス販売事業者はその社会的使命を十二分に果たし得たと信じているところである。

平成7年 盛夏

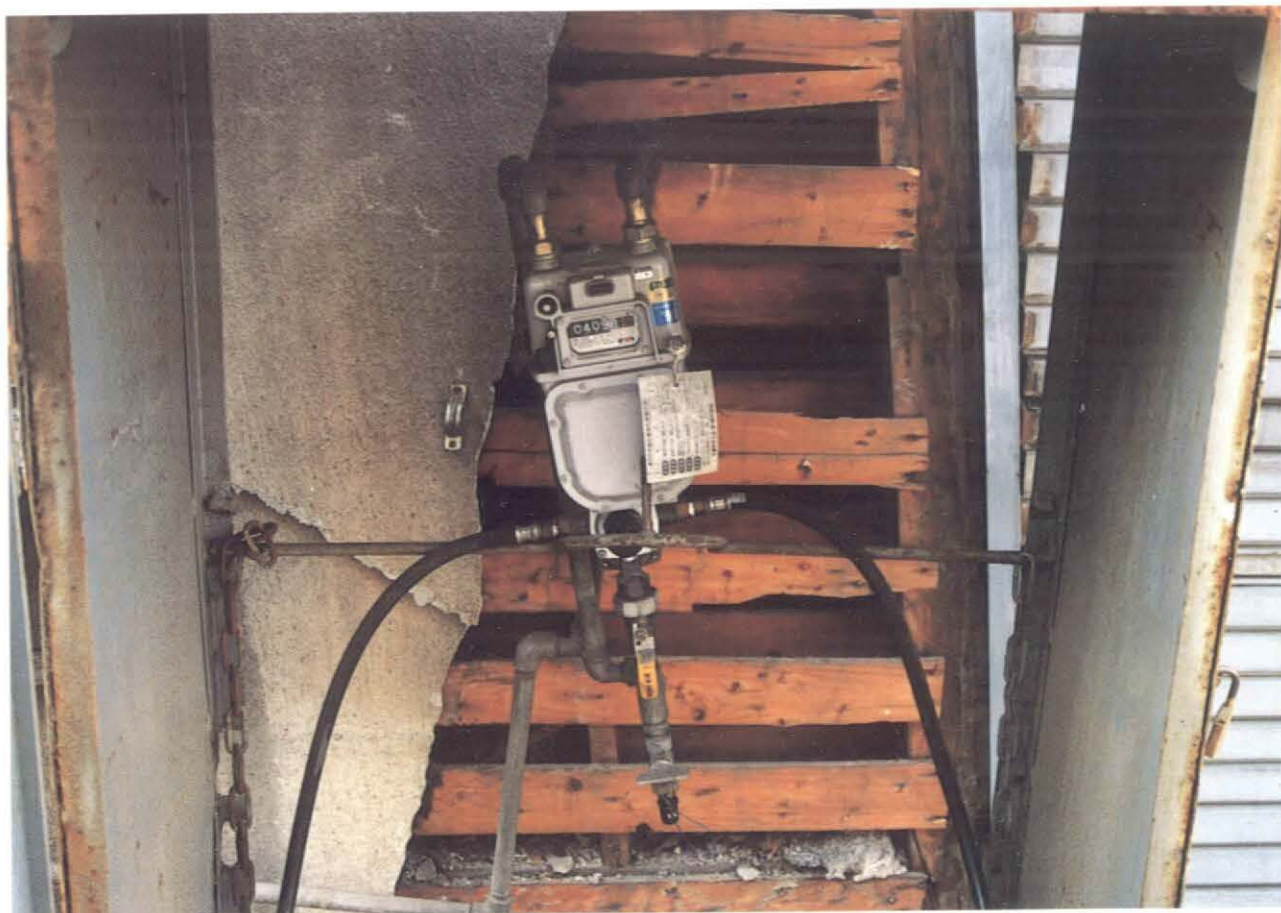
I 被害状況

震度7の激震は、LPガス販売事業者の店舗、容器置場、消費設備にも容赦なく襲いかかり、甚大な被害を与えた。



大打撃を受けた「(株)水島酸素商会」(神戸市・兵庫区)

④ 崩れ落ちた壁にしがみ付くように垂れ下がるマイコンメーター。



⑤ 崩れ落ちた土壁に埋もれた消費設備。



高圧ホースは強かった。



⬆️土地が陥没。20キロ容器は宙に浮いた状態だったが、かろうじて高圧ホースでぶら下がっている。



⬅️激しい縦揺れ・横揺れのため、チェーン止めフックがはずれたが、高圧ホースが容器の転倒を防いだ。

④誰が捨てたのか空地に転がる20キロ容器。通報を受け、協会職員が回収に出向く。



⑤倒壊した家屋や、崩れ落ちたブロック塀で損傷を受けた容器。



猛炎天を焦がす！

- ④「この中にプロパンがあり、爆発する危険があります」との中継放送がなされたが、周辺ではLPガスは使用されておらず、事実無根の誤報。この度の地震で爆発した容器は1本もない。



- ④ここでも消費者の手によって容器のバルブが閉められていた。





④ 激しい揺れであったにもかかわらず、転倒防止用のクサリと高圧ホースで転倒を免れた容器。

⑤ 容器の上へ落下してきたコンクリート屋根。





④ 倒壊した家屋と共に折れ曲がった都市ガスメーター。都市ガス被害は甚大で、都心部ではこうした光景が各所で見受けられた。

⑤ もともと隠ぺい部だったが、板壁がはがれて配管が露出。継手部分からガスが漏洩し火を吹いた。右側の黒い部分が焦げた板壁。消費者は直ちに容器バルブを閉めたため、家屋の焼失は免れた。これが、この度の震災で起きた、ただ1件のLPガスによる被災事故。



Ⅱ 懸命の復旧・復興作業



家屋倒壊 (淡路島・北淡町)

倒壊した家屋の下敷きになった20キロ容器。
ハイテクを駆使したメーターも、これでは役立たず。

容器はどこだ！



⬆ 崩壊した家屋のガレキを除き、懸命に容器を探すLPガス業者。



⬅ 傾いた家と家とのすき間から容器を撤収するLPガス販売店の点検員。

- ④集合配管の容器ハウスの中でも容器が転倒。クサリ止めのフックがブロック障壁から抜け落ちていた。高圧ホースはこのように伸びる。復旧作業に懸命のLPガス業者。



- ⑤壁が崩れ落ち、取り付けであったメーターもずり落ちる。



④倒れた容器(左側)の高圧ホースは、60cmのものが110cmにまで伸びていた。



④余震が続く中、倒壊したブロック塀に押しつぶされたメーターを取り外し、容器を回収するLPガス営業マン。



④大阪ガスでは、全国から72万名の応援を得て復旧作業に全力をあげたが、総延長5,600キロメートルにも及ぶ埋設配管の復旧は困難をきわめ、復旧宣言までに85日を要した。



神戸市兵庫区・山本さん談

④「家は全壊し、跡地にプレハブ住宅を建てました。都市ガスを引き込むのに30万円の費用がかかります。プロパンだと、とても安価で、使ってみると都市ガスと何ら変わりません。」



救援物資が届く

①1月21日早朝、大阪府LPガス協会から救援物資として20キロ容器100本と、ガスストーブ50台が夜を徹して届けられ、直ちに避難所等で使われた。



②午後4時、大阪を出発した救援物資輸送隊(トラック5台)は、パトカーの先導を受けながら午前7時に神戸到着。



救援物資の容器也大活躍

④全国から届けられた数多くの救援物資は、早速都市ガスがストップしている一般家庭にも届けられ、感謝された。



④地割れした消費者宅。埋設配管は大丈夫か、丹念に調べるLPガス販売業者。特に淡路島では、こうした地割れが多発し、埋設管の点検に苦労した。

Ⅲ 仮設住宅での活躍

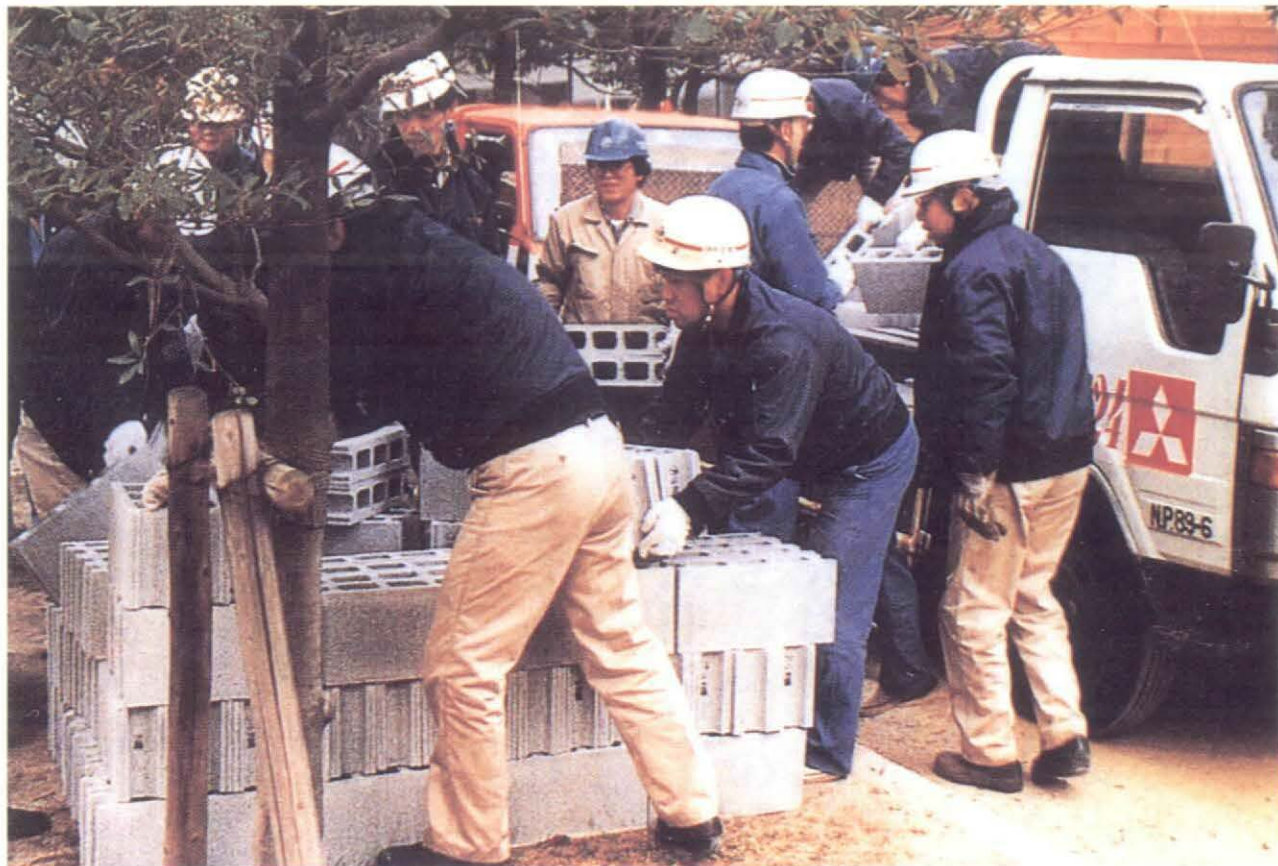


立ち並ぶ仮設住宅(神戸ポートアイランド)

避難所などで苦難の生活を余儀なくされた被災住民のための仮設住宅は、8月現在722ヵ所で47,950戸が建設されており、これらの住宅で使われるガスは、すべてLPガス。

工事作業のスタート

④芦屋市高浜町では、2名1組で50班を編成。200戸の取付工事を1日で完了する。(H7. 2. 25)



まず整地から

④土地が未整備のため、一輪車で地ならしの土木作業。湯沸器、コンロ、メーター等を区分けして各戸口へ運ぶ。



ヨイショと

Ⓣ仮設住宅の中まで車は入れない。総重量40キロの容器の重さは、ズシリと肩にくだむ。



Ⓣ47,950戸の仮設住宅では、すべてLPガスが使われたが、土地が未整備のため、容器は1本1本LPガス販売事業者の肩にかつがれ運ばれる。



④2名1組で、一斉に取付工事を開始。



⑤「気密テストよし」「点火状態よし」「警報器作動よし」「メーター遮断よし」すべての安全点検が完了。いつでも供給OK。あとは入居者を待つだけ。



まさに人海戦術

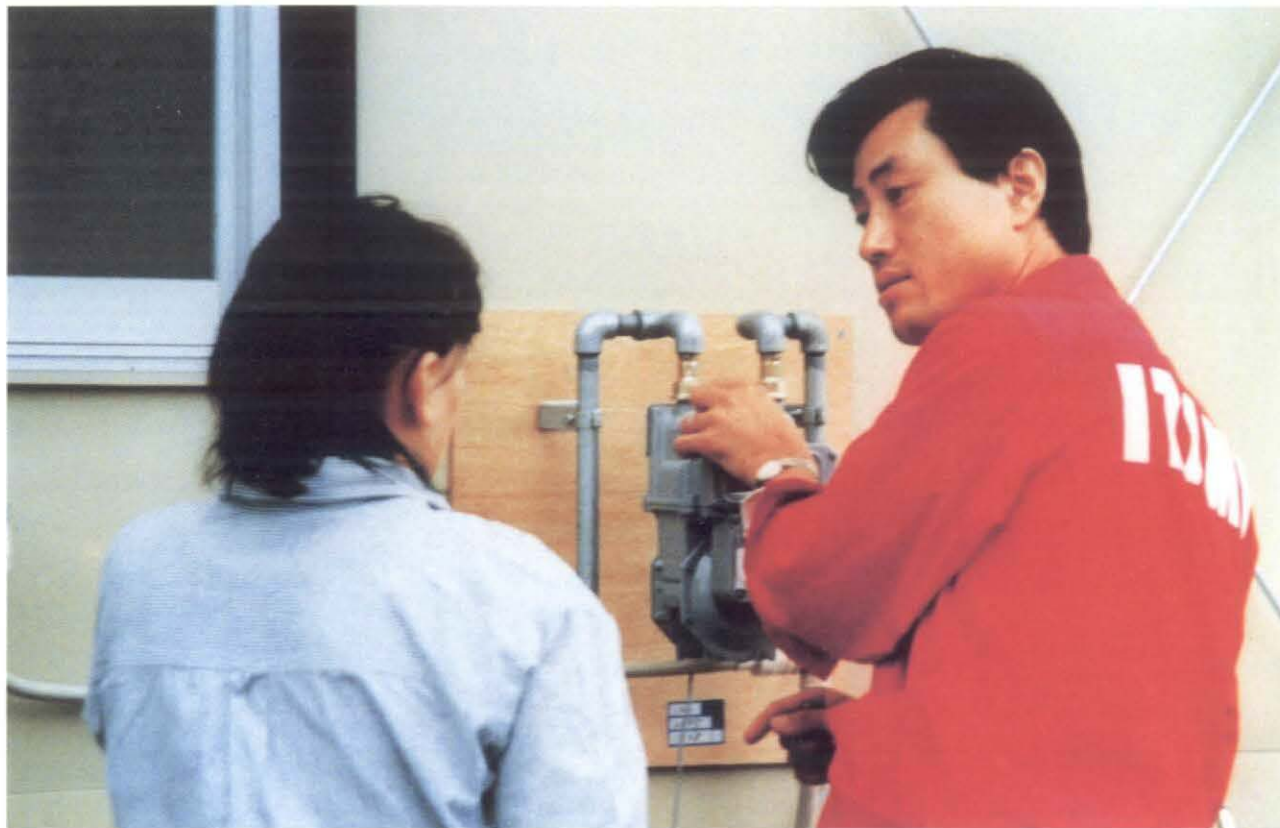
④ガス、水道、電気も完備し、いよいよ今日は入居日。LPガス業者は5戸に1人の割合で、開栓と安全使用説明のため1時間前に集合し、入念な事前打合わせが行われる。



人・人・人

④わが家となる仮設住宅の鍵を受けとる人の波。LPガス業者は戸口に立って入居者を待つが、打ち合わせど通りにうまくいくかどうか、ちょっと心配。





↑ 入居者は都市ガスユーザーだったため、特に念を入れてお客様に納得していただけるまで、説明を続ける営業マン。

④台所には、1口コンロ1ヶが設置されている。「ご不便なら2口コンロもありますよ」と器具の紹介もする。



小さな気くばりが事故を防ぐ

④点火状況はよいか、1戸1戸の室内を巡回し、無事故を願っての入念な点検を続ける。



LPガスでよかったネ!



笑顔の入居者

「苦難の避難所生活からやっと解放され、今日からわが家で炊事も出来ます。お風呂にも入れます。LPガスさんありがとう」と笑顔で応えてくれたご家族。
(川西市仮設住宅にて)

Ⅳ 復興の炎

LPガスは住民の生活基盤を根底から支えてきた。



助け合うところ燦燦

1月20日、九州のLPガス業者(九州カマタグループ)が被災地に入り、温かいご飯、ブタ汁、ラーメンなどを提供。数多くの避難所で救済活動を展開した。その他全国から何万もの救援グループが各所でボランティア活動を行ったが、活躍した燃料はすべて簡便なLPガス。(西宮市中央体育館にて)



④震災3日目の1月19日には、早くも街中に屋台が立ち並び、力強い復興の息吹きが感じられる。熱源はすべてLPガス。(神戸市中央区の公園にて)

⑤店は壊れても店外で名物の神戸ステーキを提供する。LPガスで焼いたステーキは一味ちがうとか。(神戸市中央区にて)



明暗を分ける(川西市内にて)

- ④ 同じタイプの1戸建が並ぶ住宅街。手前の家はLPガスで1月17日午後から平常どおりガスが使えたが、2軒目からは都市ガスのため長期間ガスが使えない。道路の黒い部分と白い部分が明暗を分けた。



神戸市中央区・加納幸太郎さん談

④ 「水は給水車から。熱源はLPガスをプロパンガス協会に手配していただきました。感謝しています。」1週間で営業を始めた「レストラン・コロナ」。

神戸市中央区・中野比呂美さん（喫茶店「ハコダ」）談

④「いつまで待っても都市ガスは止まったままで、営業出来ず困っていました。プロパンガスのお蔭で地震後1週間目に営業再開にこぎつけました。火力も強く、おいしいコーヒーを提供しています。」



⑤ 崩れ落ちた阪神間の大動脈「阪神高速道路」。橋脚の補強工事が急ピッチですすめられているが、復旧まで2年はかかるという。





↑↓街中ではボンベ片手にフランクの店が営業を始め、バス停ではボランティアが救援活動始める。どこに行ってもLPガスが大活躍。復興の炎は赤々と燃え、力強い住民の立ち上げにLPガスは欠かせない。



④ 寒さの中、人々は暖かいものを求めている。兵庫県プロパンガス協会神戸支部では、道端に湯茶サービスコーナーを設け、道行く人に無料提供。こんなこともLPガスだから出来ること。



神戸市灘区・上田恭子さん談

⑤ 「水道も電気も使えるようになりましたが、都市ガスはまだ使えません。2週間もお風呂に入らず、LPガスに切り替えました。工事も簡単で、今日からゆつくりわが家のお風呂に入って震災の疲れを癒します。」
都市ガスからLPガスへ切り替えた消費者。



神戸市兵庫区・藤岡紀代子さん(主婦)談

④「最初はカセットコンロで煮炊きしていましたが、家族が多いので困っていました。テレビのCMを見てプロパンガス協会へ電話をしたら販売店を紹介してくれました。大助かりで喜んでいます。」



①本建築が出来ないため、仮店舗で営業再開。都市ガスを引き込むよりLPガスの方が経済的で便利。

テント村にて

④月日は流れ、暑い夏がやって来たのに、避難所にも仮設住宅にも入れず、公園や学校の校庭などでテント生活を余儀なくされている住民は2千名余を数える。テントの外のバーベキューコンロに供給されるLPガス(神戸市長田区御蔵小学校にて)



⑤テントの中でも炊事用にLPガスが使われる。風の無い日はテントの中は40度近くになると言う。がんばって下さい。



明石市林崎町・伊藤大喜さんからいただいたお手紙(原文のまま)

「明石のマンションに住んでいますが、今回の地震でLPガスでよかったとつくづく実感しました。川の向う側は大阪ガスで、長い間ガスが止まったままでしたが、こちらはすぐ点検に来ていただき、その日から使え、仲の良い方にお風呂に入ってくださいました。1歳の子供もお風呂に入れることができ、ホットしております。これからもよろしくお願いします。」



①川の向こう側が都市ガスエリアで、手前がLPガスエリア。



②地震当日から使えた伊藤さん宅の風呂

④ 寒々とした避難所の夜。調理場となった校庭の片隅で野菜も焼きます。魚も焼きます。ここでもLPガスは大活躍。(神戸市東灘区の中学校にて)



④ 夜は冷え込む。支給されるお弁当は冷たい。せめて暖かいみそ汁とお茶を添えて……とLPガスを使って夜遅くまで活躍するボランティア。(神戸市灘区の避難所にて)



V 備えあれば憂いなし



毎年実施される防災訓練

総合訓練の他に各事業所でもそれぞれ実施される。容器に木栓を打ち込んでガスもれを止めたり、消火器で火を消したり。万一に備えて職員は真剣そのもの。

④「初期消火が大切ですよ」と消防署員から、消火器の使い方を教わる主婦。



⑤エアーポンペを背にしての防災訓練。日頃のガス配達とは勝手が違うが、万一の緊急出動に備え、訓練を積み重ねる。





⬆️⬇️毎年、消費者を対象とした保安講習会が県下各地で開催される。平成6年度は、県下50ヵ所で開催され、3万人余の消費者が熱心に聞き入った。こうした講習会でも、万一の場合は容器のバルブを閉めることが強調され、こうした積み重ねが二次災害を防ぐ。





①② (財)兵庫県プロパンガス保安協会には、9つの保安センターがあり、108名の職員が毎朝8時に消費者宅の調査点検に出発する。この度の震災では、これらの職員がナビゲーターの役目も兼ね総出動し、めざましい活躍を果たした。





⬆️⬅️ プロ意識に徹し「漏れはないか」「コンロの燃焼状態はよいか」などなど、細心のチェックを続ける調査点検員。万一の災害に備えての注意事項もしっかりと伝達する。

本誌に掲載の写真は、下記の各位からご提供いただきました。ご協力に対し心から御礼申し上げます。

淡路ガス燃料株式会社
伊丹産業株式会社
井本産業株式会社
兼岡商店
共和商事株式会社
神戸マルキ株式会社
株式会社広報企画
産業報道出版株式会社
株式会社石油化学新聞社
株式会社石油産業新聞社
ハミーガス株式会社
株式会社パブリシティワーク
津名郡北淡町役場
株式会社水島酸素商会

(アイウエオ順、敬称略)

阪神・淡路大震災が実証——
LPガスなら復旧が早く、安全です。

大型湯沸器で快適生活!!



阪神・淡路大震災LPガス復興本部
兵庫県プロパンガス協会
〒650 神戸市中央区中山手通7丁目28-33
兵庫県立産業会館内
TEL.078-361-8064(代)
FAX.078-361-8073



兵庫県商工部計量保安課
阪神・淡路大震災LPガス復興本部

兵庫県プロパンガス協会
兵庫県プロパンガス卸協議会